様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 １５ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ０２６４０

研究課題名（和文）中国古典詩学の新たな可能性――銭鍾書『談芸録』を手がかりとして――

研究課題名（英文）New Possibilities for Classical Chinese Poetics Based on Qian Zhongshu's Tanyilu

研究代表者
緑川　英樹（Midorikawa, Hideki）

京都大学・文学研究科・准教授

研究者番号：３０３８２２４５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、20世紀中国の代表的な古典学者にして作家の銭鍾書（1910-1998）による詩論『談芸録』とその自筆ノート『容安館札記』の知見を手がかりとして、中国古典詩学、ことに宋詩研究への新たなアプローチを試みたものである。基礎作業として、隔月に1回、研究会を開催して『談芸録』の会読を進め、第43条「施北研遺山詩註」までの詳細な訳注を完成させた。また、第2条「黄山谷詩補註」の内容を検討する過程で、黄庭堅の詩と任淵の注釈、さらに日本の五山僧万里集九の抄物『帳中香』にも関心の対象を拡げ、室町時代における黄庭堅の詩集の流伝と閲読に関する論文を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　博引傍証をもって知られる銭鍾書『談芸録』の詳細な訳注を作成したこと、特に隅々まで緻密な出典調査をおこなった点、『容安館札記』との関連を指摘した点は、『談芸録』のテクスト生成の手がかりを提供する上で、意義深い成果といえる。今後も紙版とウェブ版で訳注連載を継続してゆきたい。また、銭氏による「黄山谷詩補註」を検討する過程で、国立公文書館内閣文庫蔵『豫章先生文集』『外集』の文献的価値、および山谷抄『帳中香』の詩学的特徴を明らかにした点も特筆すべき貢献である。

研究成果の概要（英文）：　This project presents a new approach to classical Chinese poetics, in particular research on Song poetry, using as its starting point the insights of the writer Qian Zhongshu (1910-1998), a leading authority of classical scholarship in the 20th century. His relevant comments on poetry include those in his work of poetic criticism, Tanyilu, and also in his collected notes, the Ronganguan zhaji. The primary activity of this project was to conduct a bimonthly reading group on Tanyilu, through which we completed a detailed translation and commentary for the text up to item #43 on “Shi Beiyan Yishan shizhu.” Moreover, in the process of investigating item #2 on “Huang Shangu shi buzhu,” the scope of my research expanded from the poetry of Huang Tingjian and its commentary by Ren Yuan to the shomono, Chochuko, by the Gozan monk Banri Shukyu. As a result, I published an article on the transmission and reception of Huang Tingjian’s poetry collection in Japan during the Muromachi period.

研究分野：中国古典文学

キーワード：銭鍾書　談芸録　容安館札記　黄庭堅　万里集九　帳中香

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

錢鍾書（1910～1998）、字は黙存、号は槐聚。中国近現代文学史上、諷刺と諧謔に富んだ破天荒な小説『囲城』（1946 年、邦題『結婚狂詩曲』、岩波文庫）の作者として知られるが、一方で中国古典詩学の篤実な研究者でもあり、二十世紀中国を代表する＜知＞の巨人、「学界泰斗」と称される。その最も重要な成果が『談芸録』（開明書店、1948 年初版本、中華書局、1984 年補訂本、1987 年重印本、三聯書店、2001 年錢鍾書集本）にほかならない。

一九八〇年代半ば以降、中国において錢鍾書を対象とする学問研究（いわゆる「錢学」）がブームとなり、『談芸録』に関連する論文もおびただしい数にのぼる。しかしながら、その文学思想や個別的な内容に対する考察は一定の進展を見たものの（李曉静「近二十年国内《談芸録》研究綜述」『安徽文学』2006 年第 8 期）、大半は断片的な解説にとどまり、『談芸録』という書物自体を丁寧に精読した成果は必ずしも多くない。他方、日本の学界に眼を転ずれば、『談芸録』の訳注が雑誌『飆風』第 29～34 号において発表されたが、五回の連載を数えた時点で中断してしまう（2015 年に再開）。その間、宋代詩文研究会による『宋詩選注』の全訳（平凡社東洋文庫、2004 年）も上梓されたが、錢鍾書の学問の特質や由来については、なお探究の余地があるといってよい。

研究代表者（緑川）は、これまで梅堯臣・欧陽脩・黄庭堅・陳与義などの宋代の詩歌および文学理論について研究を進めてきたが、その過程で、錢鍾書の古典詩学から示唆に富む観点を少なからず得てきた。特に詩論書『談芸録』とその母体をなす手稿集『容安館札記』（商務印書館、2003 年）、『中文筆記』（同、2011 年）、『外文筆記』（同、2014～15 年）にあらわれる錢氏の文学・芸術に関する知見を手がかりとして、中国古典詩学の新たな可能性を模索することが可能なのではないかと考え、本研究を構想するに至った。

２．研究の目的

本研究の第一の目的は、『談芸録』の精密な解読作業と国内外の所蔵機関における原典調査、錢鍾書の自筆ノートの分析を通して、実証的な日本語の訳注を作成、公表することにある。第二の目的は、『談芸録』の解読を踏まえたうえで、錢氏の所論を批判的に検証し、中国古典詩学、ことに宋詩研究における新たな可能性を探ることにある。具体的には、以下の二つの問題に重点が置かれる。

（１）『談芸録』のテクスト生成の解明

古今東西の学問に精通し、博覧強記で名高い錢鍾書が『談芸録』に引用した文献について徹底的な原典調査と考証をおこなうとともに、研究成果をわかりやすく社会に還元するべく、詳細な訳注を公表する。また、『容安館札記』『中文筆記』『外文筆記』など錢氏自筆の読書ノートを積極的に活用し、『談芸録』のテクスト（特に補訂・補正の部分）がいかに成立したのかという問題もあわせて明らかにする。

（２）『談芸録』を手がかりとした宋詩研究の推進

錢鍾書は、彼個人の手になるアンソロジー『宋詩選註』において、宋詩の題材、イメージ、技巧などについてすぐれた見識を示しているが、宋代の詩歌史を系統的に論述した学術書はついに著すことはなかった。本研究では特に『談芸録』第 2 条「黄山谷詩補註」に着目し、錢鍾書が黄庭堅（号は山谷道人）の詩とその注釈をどのように解読・補正したかを検討したうえで、それを手がかりとした新たな黄庭堅詩研究の可能性を探る。

３．研究の方法

（１）『談芸録』の精密な解読

唐宋文学だけでなく、六朝文学や明清文学その他異分野の研究者を加えた小型研究会を組織し、『談芸録』の解読を進めた（およそ隔月 1 回のペースで開催）。『談芸録』所引の文献は可能なかぎり逐一原典にあたり、精密な訳注作成をこころがけ、あわせて諸本の校勘にも十分な注意を払った。『談芸録』は開明書店版と中華書局版とのあいだにかなり多くの異同があり、錢鍾書は大幅な筆削と補訂を加えている。1987 年重印の際にも七十数条におよぶ補正を追加し、さらに三聯書店 2001 年刊の錢鍾書集本においても若干の修整が施されている。本研究の訳注作成にあたっては、1987 年中華重印本を底本とし、補訂・補正の排列は 2001 年三聯本に従った。

（２）『錢鍾書手稿集』の活用

『談芸録』の補訂・補正部分は、近年陸続と影印出版された『錢鍾書手稿集』（『容安館札記』『中文筆記』『外文筆記』）にその淵源を求めることができる。たとえば、『談芸録』では簡略にしか言及されない箇所について、『容安館札記』では具体例を挙げて詳しく説明するなど、『談芸録』の本文が確定される以前の研鑽の記録と資料の取捨を見ることができる。本研究では、こうした錢氏による自筆ノートを積極的に利用し、『談芸録』テクスト生成の過程を追う。

（３）銭鍾書の黄庭堅詩研究から万里集九の山谷抄『帳中香』へ
『談芸録』第 2 条「黄山谷詩補註」は本編 59 項目、新補 40 項目におよび、銭鍾書が任淵らによる黄庭堅詩の旧注を丹念に読みこんで、その不足を補った成果であり、銭氏が宋代の詩人のなかでもとりわけ黄庭堅に強い関心を寄せていたことが窺える。実のところ、銭氏から遠く遡ること日本の室町時代、五山の禅僧たちもまた任淵注に依拠しつつ、黄庭堅詩に対する独自の解釈を試みていた。いわゆる「山谷抄」である。その中でも特に重要な万里集九『帳中香』の詩学的特徴を考察し、古典詩学の新たな可能性を探る。

４．研究成果
「２．研究の目的」に挙げた二つの基軸となる問題に即しながら、本研究期間内における成果の内容を具体的に述べたい。

（１）『談芸録』のテクスト生成の解明
本研究の根幹をなす『談芸録』解読の成果としては、「銭鍾書談芸録」（七）～（九）を雑誌『飆風』に発表した。これらは第三十九条「龔定アン詩」に対して詳細な訳注を施したものである。『談芸録』には、古今東西の各種文献が縦横無尽に引用されているが、可能なかぎり逐一原典に当たり、人名・書名についても適宜解説を加え、精密な訳注作りをこころがけた。また、いくつかの注釈には、『容安館札記』など銭氏自筆ノートにもとづくことを指摘している。
『談芸録』の訳注は、かつて 1994 年から 1998 年にかけて同じく『飆風』誌上に五回連載されて後、しばらく中断していた。2015 年に再開されて現在に至るが、途中の未刊部分がのこったままである。幸いなことに、当時研究会を主催していた荒井健氏（京都大学名誉教授）より草稿の提供を受けたので、その部分についても緑川の校補を経て順次公表してゆく予定。

（２）『談芸録』を手がかりとした宋詩研究の推進
①黄庭堅集の文献学研究
銭鍾書の文学・芸術論、特にその黄庭堅の詩に対する解釈（『談芸録』第 2 条「黄山谷詩補註」と『宋詩選註』など）から示唆を受けつつ、室町時代の五山禅僧による抄物（「山谷抄」）の一つ、万里集九『帳中香』について考察した。その具体的な成果としては、論文「山谷詩在日本五山禅林的流伝与閲読――以万里集九《帳中香》為例」、口頭発表「黄庭堅集在日本室町時代流伝考」がある。この 2 篇は、『帳中香』において対校本として使用された黄庭堅集（「大字魁本」）が国立公文書館内閣文庫蔵『豫章先生文集』三十巻、『外集』十五巻と同系統のテクストであることを指摘するとともに、内閣文庫本の残闕復原を試みたものである。特に内閣文庫本の文献価値に関しては、本研究によって初めて解明された重要な学術上の貢献といえよう。また、前者の論文では万里集九が禅学の観点からどのように黄庭堅詩を解釈しようとしたか、具体例を挙げて詳細に分析した。

②『帳中香』の詩学研究
上述したとおり、万里集九の抄物『帳中香』は、五山禅林における黄庭堅詩解釈の最も重要な成果の一つである。従来、抄物は室町時代の口語研究の資料として利用されることが多かったが、注釈の内容そのものの価値については必ずしも充分な検討がなされていない。実のところ、山谷抄は任淵などの中国の旧注を補う新たな視点を提供し得るものであり、また時として図らずも銭鍾書の見解と重なり合うこともある。このような問題意識のもと、論文「万里集九《帳中香》的詩学文献価値」を発表し、「作品構造に対する細緻な分析」「山谷詩の句法論」「禅宗思惟による詩歌理解」「日本に関する話題提供」といった詩学上の特徴を考察した。この論文は、国立清華大学開催の「宋代文献新視野：研究課題及方法的反省与前瞻国際研討会」で口頭発表した後、国際的な学術雑誌『清華学報』に掲載された。

③その他
『談芸録』第１条「詩分唐宋」において、銭鍾書は唐詩と宋詩を歴史的な概念ではなく、二つの異なる文学様式とする観点を提起したことはよく知られるが、彼の古典詩学を考えるうえで、「唐宋詩比較論」「唐宋詩之争」という問題が重要なポイントとなることはまちがいない。この問題をめぐって、論文「唐宋詩詠雨詩譜系――以“雨中花”意象為中心」では、六朝か唐宋に至る「喜雨／苦雨」という伝統的な表現類型を超えて、「雨中の花」すなわち雨に濡れ潤う艶麗な花、あるいは雨に打たれる摧残の花というイメージを杜甫や陳与義らがいかに創出したか、その過程を詳細に分析した。また論文「欧陽修的美醜意識及其表現――囲繞対韓愈詩“醜悪之美”的接受」では、中唐の詩人韓愈のいわゆる「醜悪の美」が北宋の欧陽脩にどのように受容されたかという問題について考察を深めた。以上２篇はいずれもかつて日本語で発表した論文を修訂増補し、中国語で公刊した成果である。
銭鍾書の尖鋭な見解に導かれるかたちで、任淵の注釈方法、さらには五山禅僧の山谷抄へとさまざまに問題意識が膨らんでいった。こうした黄庭堅詩に関する注釈学的な問題は本研究期間ですべてあつかうことはできなかったが、今後、引き続きとりくんでゆきたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計14件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 談芸録をよむ会（緑川 英樹）	４．巻 58
２．論文標題 銭鍾書談芸録（八）	５．発行年 2019年
３．雑誌名 飆風	６．最初と最後の頁 119-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 緑川 英樹、大平 幸代	４．巻 58
２．論文標題 莫砺鋒『莫砺鋒詩話』「愛情」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 飆風	６．最初と最後の頁 133-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 緑川 英樹（于 為烈 訳）	４．巻 7
２．論文標題 欧陽修的美醜意識及其表現――囲繞対韓愈詩“醜悪之美”的接受	５．発行年 2018年
３．雑誌名 新宋学	６．最初と最後の頁 186-198
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 緑川 英樹、道坂 昭廣、永田 知之、小松 謙、平田 昌司	４．巻 70
２．論文標題 学会展望　文学	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本中国学会報	６．最初と最後の頁 50-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 談芸録をよむ会（緑川 英樹）	4．巻 57
2．論文標題 銭鍾書談芸録（七）	5．発行年 2018年
3．雑誌名 飆風	6．最初と最後の頁 24-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 緑川 英樹、大平 幸代	4．巻 57
2．論文標題 莫砺鋒『莫砺鋒詩話』「相思」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 飆風	6．最初と最後の頁 58-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 緑川 英樹	4．巻 6
2．論文標題 山谷詩在日本五山禅林的流伝与閲読――以万里集九《帳中香》為例	5．発行年 2017年
3．雑誌名 新宋学	6．最初と最後の頁 132-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 緑川 英樹	4．巻 －
2．論文標題 唐宋詠雨詩譜系――以“雨中花”意象為中心	5．発行年 2017年
3．雑誌名 漢学与伝統文化：第十一届馬来西亜漢学国際研討会論文集	6．最初と最後の頁 107-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 緑川 英樹、道坂 昭廣、永田 知之、木津 祐子、平田 昌司	4．巻 69
2．論文標題 学会展望　文学	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本中国学会報	6．最初と最後の頁 53-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 緑川 英樹、大平 幸代	4．巻 56
2．論文標題 莫砺鋒『莫砺鋒詩話』「隣人」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 飆風	6．最初と最後の頁 60-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 談芸録をよむ会（緑川 英樹）	4．巻 59-60
2．論文標題 銭鍾書談芸録（九）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 飆風	6．最初と最後の頁 175-184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 緑川 英樹、大平 幸代	4．巻 59-60
2．論文標題 莫砺鋒『莫砺鋒詩話』「友情」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 飆風	6．最初と最後の頁 185-199
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 緑川 英樹、道坂 昭廣、永田 知之、小松 謙、平田 昌司	4．巻 4
2．論文標題 学界展望（文学）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 古代文学前沿与評論	6．最初と最後の頁 20-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 緑川 英樹	4．巻 51-2
2．論文標題 万里集九《帳中香》的詩学文献価値	5．発行年 2021年
3．雑誌名 清華学報	6．最初と最後の頁 271-307
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.6503/THJCS.202106_51(2).0002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　4件／うち国際学会　4件）

1．発表者名 緑川 英樹
2．発表標題 万里集九《帳中香》的詩学文献価値――論日本室町時代的山谷詩闡釈
3．学会等名 宋代文献新視野：研究課題及方法的反省与前瞻国際研討会（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 緑川 英樹
2．発表標題 欧陽修的美醜意識及其表現――囲繞対韓愈詩“醜悪之美”的接受
3．学会等名 2018国際中青年学者宋代文学研討会（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2018年

１．発表者名 緑川 英樹
２．発表標題 山谷詩在日本五山禅林的流伝与閲読――以万里集九《帳中香》為例
３．学会等名 世界漢学与中国文学工作坊「中国文学研究新視野：文本的流伝与閲読」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 緑川 英樹
２．発表標題 黄庭堅集在日本室町時代流伝考
３．学会等名 2017国際中青年学者宋代文学研討会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計7件

１．著者名 川合 康三、富永 一登、釜谷 武志、和田 英信、浅見 洋二、緑川 英樹	４．発行年 2019年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 470
３．書名 文選 詩篇（六）	

１．著者名 川合 康三、富永 一登、釜谷 武志、和田 英信、浅見 洋二、緑川 英樹	４．発行年 2018年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 414
３．書名 文選 詩篇（一）	

1．著者名 川合 康三、富永 一登、釜谷 武志、和田 英信、浅見 洋二、緑川 英樹	4．発行年 2018年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 419
3．書名 文選 詩篇（二）	

1．著者名 川合 康三、富永 一登、釜谷 武志、和田 英信、浅見 洋二、緑川 英樹	4．発行年 2018年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 408
3．書名 文選 詩篇（三）	

1．著者名 川合 康三、富永 一登、釜谷 武志、和田 英信、浅見 洋二、緑川 英樹	4．発行年 2018年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 436
3．書名 文選 詩篇（四）	

1．著者名 川合 康三、富永 一登、釜谷 武志、和田 英信、浅見 洋二、緑川 英樹	4．発行年 2019年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 408
3．書名 文選 詩篇（五）	

１．著者名 川合 康三、緑川 英樹、好川 聡	４．発行年 2017年
２．出版社 研文出版	５．総ページ数 565
３．書名 韓愈詩訳注　第二冊	

〔産業財産権〕

〔その他〕

銭鍾書談芸録・二「黄山谷詩補註」（新補01-10） http://biaofeng.info/ 2016年中国文学関連文献目録（単行本） http://nippon-chugoku-gakkai.org/index.cgi

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関